

## テクノロジーとイノベーションの世界で活躍する女性を支援

—COSMOS Week 2008 オープニング・セッション—



2008年10月15日(水)から17日(金)までの3日間、日本アイ・ビー・エム株式会社(以下、日本IBM)箱崎事業所および大和事業所において、テクノロジーとイノベーションの世界で活躍する女性技術者のさらなる成長と、その支援推進を図ることを目的としたイベント『COSMOS Week 2008』が開催されました。

COSMOSとは日本IBMが組織する女性技術者コミュニティです。2005年10月の設立以来、メンバーである女性社員自身が課題点の把握、分析、検討を行い、改善策を経営層に提言するという形で女性技術者のリーダーを育成、登用する環境作りのための各種活動を行ってきました。3年目となる今年はその内容にも一段と趣向が凝らされ、米国IBM本社の役員とのディスカッションや各種セミナーなど20を超える個別セッションが用意されました。

箱崎事業所の大会議室で開かれたオープニング・セッションに参加した女性技術者の数は約180人。COSMOSのスポンサー・エグゼクティブでもある日本IBM 会長 大歳卓麻(当時 社長兼会長)ら3人から激励のメッセージを受け、女性技術者たちは女性の働きやすい職場づくりに向けた全社的な取り組みを再認識していました。

### 技術者の女性比率向上を目指して



大歳 卓麻

日本IBMでは、女性社員の能力を大きく開花させるため『日本IBM Women's Council(以下、JWC)』という諮問機関を1998年に立ち上げました。その活動は、現場の第一線で働く部長クラスの女性社員が集まり、後に続く女性社員のために何をすべきかを議論し、会社に提言をしていくということが中心でした。また東京国際フォーラムに毎年1,500人を超える女性社員を集めての総会も開催され、日本IBMが女性社員に掛ける期待の大きさを伝えることで、その自覚を促すために大きな役割を果たしてきました。大歳のスピーチは、当時を振り返ることから始まります。

「1998年、第一回のWomen's Councilは女性社員に対する“意識付け”を目標として開催されました。しかし初めての試みだったということもあって20～30人の男性役員が前の方に固まり、男性役員から女性社員に向けてメッセージを送るといった形になってしまいました。これでは、女性社員の自覚を促すといっても何か違いますよね。

「1998年、第一回のWomen's Councilは女性社員に対する“意識付け”を目標として開催されました。しかし初めての試みだったということもあって20～30人の男性役員が前の方に固まり、男性役員から女性社員に向けてメッセージを送るといった形になってしまいました。これでは、女性社員の自覚を促すといっても何か違いますよね。

ですから、翌年の第二回にはその反省を踏まえ、2,000人も集まってくれた女性社員の中に約200人の男性社員を分散して配置したのです。その時の議題は、いつも男性に囲まれている女性社員の気持ちを分かってもらおうということでした」

セッション会場を埋める女性技術者たちはこの言葉に和み、緩やかな雰囲気で大歳のスピーチは進みました。

「こうして活動を続けてきたJWCですが、2005年までの8年間で一定レベルの実績を残すことができました。しかし、気が付いてみると、日本IBMの中でも重要な役割を担うテクニカル・リーダーの女性比率には大きな変化がありませんでした。日本IBMは技術で成り立っている会社ですから、そこがおろそかになってはいけないということで、JWCの理念をもう一步踏み込んで考えるために、女性技術者に特化したコミュニティーとして結成されたのがCOSMOSなのです。この名前の基になったコスモスの花は美しいだけではなくて強い花です。一度倒れても、そこにまた根を広げて成長して、最後はかわいらしい花を咲かせます。この名前には、そうした強さを皆さんにも持っていただきたいという思いが込められているのです」

## 国内ではトップクラスの女性登用率を達成

2005年に発足したCOSMOSの活動によって、日本IBMの全技術者数に対する女性技術者の割合は格段に向上しました。しかしワールドワイドの視点から見た場合、まだまだ途中でしかないと言え、大歳は続けます。

「本来、ダイバーシティー（男女や人種、障がいがある方など多様性の受容）は当たり前のことです。人間は半分が男性で半分が女性なわけですから。北欧の国では国会議員の半分が女性であるとか、大臣の半分が女性であるということを国の自慢にしています。しかし日本をはじめ多くの国ではそこまでの認識に至っていないというのが実情です。そこで最近、米国IBM本社の人事がこのダイバーシティーを文書化し、ダイバーシティー1.0、2.0、3.0としてまとめました。1.0は『機会を与える』で、機会均等の考え方を徹底するということ。2.0は『違いを知る、違いを評価する』、そして3.0は『違うことをバリューにつなげる』、つまりそれぞれの違いを生かしてシナジーを起こすことで、新しい価値を生み出していくという考え方です。現在私たち日本IBMでは、2.0と3.0の間には達していると感じています。皆さんの努力によって、女性技術者の割合は全体の20%にまで上昇し、そのうちテクニカル・リソース（リ

ダー候補生）の比率は8.5%と男性の比率を上回っています。これは日本国内の企業においては間違いなくトップクラスにあるわけで、今年『日経WOMAN（日経BP社）』が調査した女性が働きやすい会社Best 100でも総合2位（女性活用度の評価は1位）に選ばれました。ただ、グローバルIBMの中ではこれでもかなり遅れをとっている状況ですので、今後もさらに力を入れていきたいと考えています」

## 日本のコア・コンピテンシーを生かし グローバルにおける役割を全うする

世の中の企業にも、女性社員のコミュニティーは数多く存在します。しかし、COSMOSの最大の特徴は、技術者に注目していることであると大歳は語ります。

「日本のコア・コンピテンシーは科学技術、あるいは製造業にその多くが存在すると思います。2008年のノーベル賞では日本から4人も受賞されましたが、それはみな物理学や化学分野での受賞です。このことも日本の強みがどこにあるのかということを表しているのではないのでしょうか。私たちは日本人の強みをさらに強くすることで、グローバルの中で日本という国が持つ役割に対して価値を発揮していくことがとても重要だと考えています。そうした意味で、技術者に注目したCOSMOSはとても大きな意味を持っているのです。そしてディスティングイッシュト・エンジニア（技術理事：以下、DE）やフェロー（技術系の最高位）を目指す候補職位の方をもっと増やしていきたい。現在、次点の位置にいる方々が早く候補職位になってもらうことを心からお願いしたいと思っています」

日本IBMでは、家事や育児に追われる女性社員も仕事に没頭、専念できるような環境を全社的に整えています。それを受け、大歳は女性社員のチャレンジによって現状が大きく変わるというメッセージをもって、スピーチを締めくくりました。

「結婚など、環境の変化によって、いろんな意味で仕事に専念できない状況も出てくることでしょう。しかし、専門の分野で職位が上がり、あるいはDEやフェローになることによって見える世の中や仕事の景色というのは変わってくると思います。これは実際にその位置に行くことで分かっていただけでしょう。この場に集まっていた女性技術者の方々にはぜひチャレンジしていただきたいのです。そしてこの3日間のCOSMOS Weekで開かれるセミナーなどを大いに活用して自分の仕事に役立つアイデアを持ち帰り、女性同士のネットワークもぜひ



築き上げてください。そしてさらにお願いしたいのは、女性社員として職場に対するアイデアや要望など、忌憚のない意見を表現してほしいということです。それが日本IBMの変革につながるのだと思いますので、皆さん方にはIBM、さらには社会をけん引するチェンジ・リーダーとして一層活躍していただくことを期待して、私のあいさつに代えさせていただきます」

この大歳のスピーチには大きな拍手が送られ、COSMOS Week 2008のオープニング・セッションは次のプログラムへと進みました。

## 上級職位を勝ち取るために 女性社員自らのチャレンジが必要



菅原 香代子

2番目に登壇したのは、COSMOSのリーダーである日本IBMソフトウェア事業DEの菅原 香代子です。菅原のセッションは、これまでのCOSMOSの活動の成果を紹介し、次代を担う女性技術者たちにさらなる意識向上を促すものでした。

「COSMOSでは、発足した2005年10月から2007年10月までを第一期、2007年11月から第二期としてとらえ、2009年末までに日本IBMの女性テクニカル・リーダーとテクニカル・リソースの比率を男性と同等にすることを目標に活動しています。これまでさまざまな活動によって女性テクニカル・リーダーの数は当初の数人から大幅に

増加し、またテクニカル・リソースにおいては男性の比率を超えるまでになりましたが、それでもまだ目標には達していません。しかし、こうした活動を通して、多くの課題が見えてきました。これらを踏まえて、今後もさらなるアクションを起こしていきます（図1）。そこで私からのメッセージですが、皆さん、ぜひ勇気をもって上級職位にチャレンジしてください。皆さんの中には上級職位へのチャレンジに慎重な方もいます。しかし、万一失敗しても、面談を受けたり、ICP（IBM Certified Profession：IBMの認定制度）パッケージを作成したりするということを通じて、今の自分に何が足りないのかということが分かってきます。そして、自分が今後何をすべきかということが明確になります。ぜひ勇気を持ってチャレンジしてください」

さらにワールドワイドでの技術コミュニティへの参加を菅原は促します。

「ワールドワイドではIBM Academy of Technology（以下、IBMアカデミー）やCorporate Technology Team（以下、CTT）などのテクニカルな活動があります。IBMアカデミーは、全世界のIBMから選出された技術系プロフェッショナル・リーダーをメンバーとするテクニカル・コミュニティ、CTTはコーポレートでテクノロジーの方向性を定める会議です。こうしたテクニカル活動に参加することにより、世界各国のDEやフェローと知り合うことができたり、技術的に深い議論を交わしたりと、素晴らしい経験を積むことができます。ぜひこうしたチャンスを積極的に生かすようにしてください」

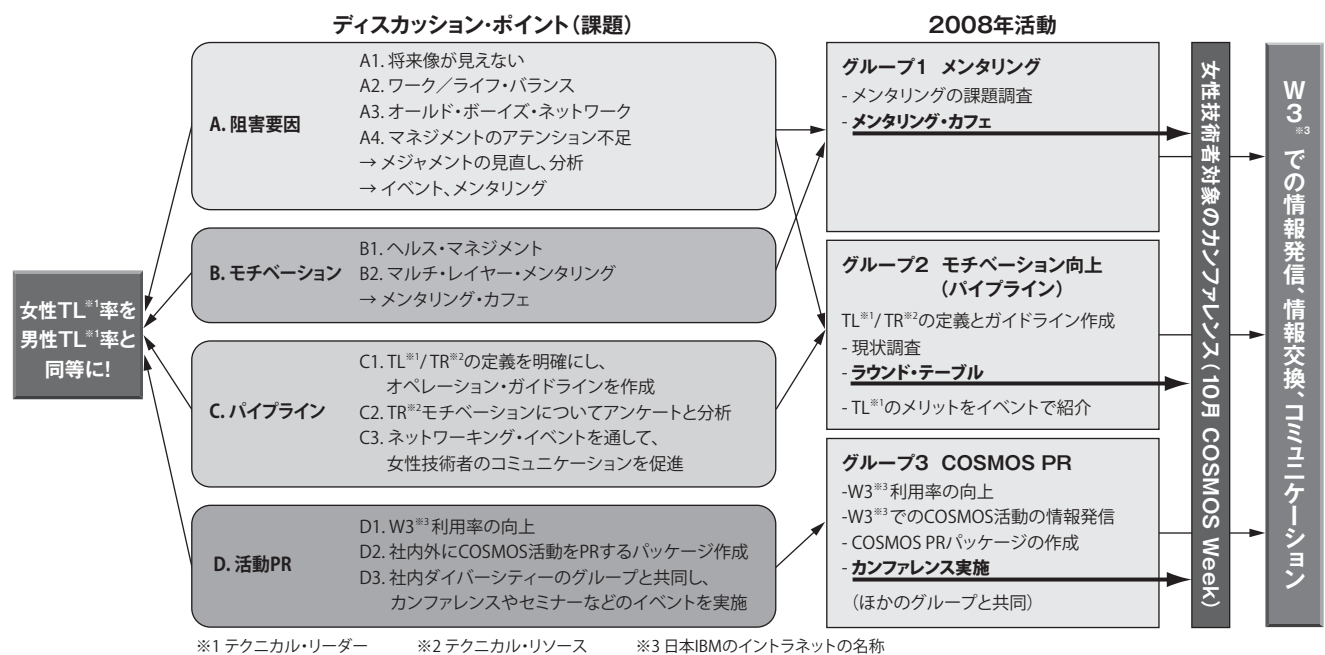


図1. COSMOS第二期活動の内容

## 積極的なアプローチによって 心から相談できる相手を持つことが大切

女性社員が自分の意識を高く掲げ続けていくのは簡単なことではないでしょう。それを打開していくために必要なのは、よき相談者を持つことだと菅原は語ります。

「皆さんの中でメンター（心から相談できる理解者）を持つ方はどれだけいますか。メンターという考え方は日本では一般的にはまだ広まっていないと思いますが、米国などでは高い意識をもって受け止められています。尊敬できる技術者などを見つけたら、まったく話したことがない方であったとしても e-メールなどで自分のメンターになってほしいと相談を持ちかけるなど、積極的なアプローチが日常的に行われています。皆さんも自分が目標とする先輩を見つけたら、ためらうことなくアプローチしてください。信頼できるメンターに相談しながら、次なるステップへチャレンジしていくことで、自分自身が次世代の IT システムやサービスにどう取り組んでいくかというビジョンがより明確に見えてきます。そのビジョンを皆に語り、ディスカッションすることでさらにビジョンは洗練され、自信がつかえます。そして、ぜひ日本 IBM や IT 業界を引っ張ってほしいと願っています」

## 女性が持つ高いクリエイティビティーは これからのITを変える可能性を秘めている



榊原 彰

そして、3 番目にマイクを持った日本 IBM エンタープライズ・アーキテクチャー & テクノロジー DE の榊原 彰が行った、世界で活躍する女性技術者の発表によって、参加者はさらなる希望を見いだすことになりました。

「まず皆さんにご紹介したいのは、詩人バイロンの一人娘であるオーガスタ・エイダ・キングという女性です。実は世界初のプログラマーはこの方だといわれています。後に Pascal や CLU といったプログラミング言語から作られたオブジェクト指向言語は、そんな彼女に敬意を表して Ada と名付けられたというエピソードもあります」

このように、榊原のスピーチは具体的な女性技術者を次々と紹介することから始まり、さらには女性の脳の構造は今後の IT の世界を変える可能性を秘めているという話へと移りました。

「そもそも、女性の脳というのは、男性と比べて脳梁というものが太いそうです（図 2）。脳梁は左脳と右脳

の情報伝達をつかさどる部分ですが、これが太いということは、より多くの情報が素早く伝達されることを意味しています。例えば、男性がアナログ回線だとすると女性の場合はギガビット・イーサネットで通信しているようなもの（笑）。感覚と論理を結び付けるのが早いのです。こうした特性の脳を持っている女性というのは、感覚と論理の融合によって成り立っている現代のテクノロジーにおいてはとても価値のある存在なんだということを皆さんに知っておいてほしいのです」

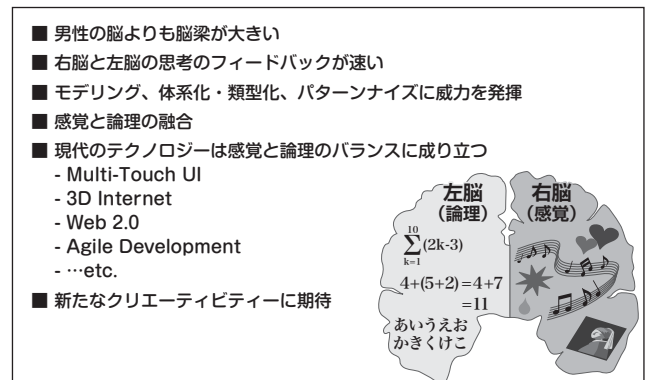


図2. 女性の脳の構造は高いクリエイティビティーを秘めている

## ワーク／ライフ・バランスの向上を 全社的にサポート

IT 業界における女性技術者の価値を説く榊原ですが、女性が働いていく上でワーク／ライフ・バランスをとることはとても大切なことだと続けます。

「今の社会構造の中では、女性の方々は結婚されると多くの負担を抱えることになってしまうという状況があります。仕事と家庭の両立は大変なことでしょう。しかし、日本 IBM にはこの COSMOS をはじめ、ワーク／ライフ・バランスについてディスカッションやサポートを行うためのサイトである『Work/Life Platform』などさまざまな取り組みがあります。これらをぜひ有効に活用して、仕事と家庭、それぞれをより充実したものにしていただきたいと思います」

この榊原の言葉をもって、COSMOS Week 2008 オープニング・セッションは終了しました。3 名のスピーチは日本 IBM が女性技術者の持つ可能性をとっても高く評価するもので、参加した約 180 人の女性技術者たちは、そうした期待の一端に触れることで、これからの仕事に対するビジョンを新たにしたことでしょう。